

## 目 次

1. ごあいさつ	2
「退任のご挨拶」	
2. 令和6年度事業のご案内	3
(1) 第20回広大マスターズ主催講演会	3
(2) 広大マスターズ講師派遣講座	4
(2-1) ちゅーピーカルチャーセンター講座に2講師派遣	
(2-2) 令和6年度夏期日本語・日本文化特別研修に2講師を派遣	
3. 会員エッセイ	5
「広島原爆で亡くなった市井のカイアシ類学者，森 喬以（1902-1945），の生涯と業績」	5
「広島大学東広島キャンパス内に「平和の小道」を創る」	6
4. 会員情報	10
訃報	
5. 追悼文	10
吉田光演先生を悼む	10
黒川正流元幹事の逝去を悼む	11

## 退任のご挨拶

広大マスターズ会員 谷本 能文

極暑の夏、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は、どなたでもできる代表幹事の例となればと4年前、代表幹事をお引き受けしました。ところが、その後体調不良が続き、多くのミスをしてしまいました。その結果、会員の皆様・幹事の皆様に種々のお迷惑をお掛けすることとなりました。大変申し訳ございませんでした。今後引き続き代表幹事を続けるのは無理と判断し、今回代表幹事を辞退することにしました。わがままをお許してください。

さて、広大マスターズは、広大および地域との連携・協力活動、会員の交流活動そして自主的な情報発信活動等を主な目的に、2006年12月に結成されました。それからかれこれ18年が過ぎました。この間「広大マスターズ10年史」（広大マスターズHPに掲載）にあるように、広島大学・東広島市・東広島市市民にいろいろな形でお役に立てたと思います。しかしながら、会員の構成年齢の変化・社会のニーズの変化など結成当時とは大きく変わってきているように思います。これからの先の5年・10年をどうすればよいのか考える時期が来たように思います。幹事会の中に人事選考委員会を作り新しい代表幹事等についていろいろ思案を重ねました。その結果、上 真一先生に代表幹事をお願いすることとしました。上 先生は大変御多忙で申し訳ないのですが、上 先生を中心にこの先の広大マスターズの進むべき方向と改革をご検討願いたいと思っています。

簡単ですが、退任の挨拶とさせていただきます。



## 令和6年度事業のご案内

### (1) 第20回広大マスターズ主催講演会

#### 『サイバー犯罪とサイバーセキュリティの法的責任』

広大マスターズ幹事 上 真一

標記の講演会を下記のように開催します。

概要：サイバー犯罪が大企業や団体のみならず個人にまでさまざまな形で及んでおり、多大な損害を被っているケースも報道されています。すでにさまざまな観点から論稿が公表されておりますが、本講演では、それらを法的観点から整理し、その実態ごとに区分して法律上の責任を明らかにする予定です。法的責任は、行政責任、刑事責任、民事責任に分けることができます。その各法的責任に応じた対応にどのようなものがあるか、その対応によってどこまで予防・救済等ができるのか、現段階での課題にどのようなものがあるのかを考える機会にしたいと思います。

講師：鳥谷部 茂 先生（広島大学名誉教授・弁護士）



（講師紹介）青森県七戸町生まれ（1952年）。七戸高校卒業後、法曹をめざして上京し、法政大学法学部、筑波大学大学院社会科学研究科法学専攻博士課程を修了。その後、近畿大学法学部講師、助教授を経て、1991年より広島大学法学部助教授、教授、及び、法科大学院教授として民法等の教育・研究に従事。主な研究領域は、民法、金融担保法、土地法、消費者法など。比較法学会理事、日本土地法学会理事・理事長・会長、日本消費者法学会理事（継続中）を歴任。2018年に定年退職。研究教育を継続しながら広島弁護士会で研究と法曹実務との接点を学んでいる。

司会：上 真一（広島大学名誉教授・広大マスターズ代表幹事）

日時：2024年9月14日（土）午後1時30分～3時（開場：午後1時15分）

場所：広島大学フェニックス国際センター・ミライクリエ大会議室

（東広島市鏡山1丁目4 大学会館前バス停前）

主催：広島大学マスターズ

共催：広大マスターズ友の会

入場無料（事前申込不要。どなたでもご参加いただけます。）

お問い合わせ：広島大学マスターズ（上 真一）

電話：090-7541-0701

メール：[suye@hiroshima-u.ac.jp](mailto:suye@hiroshima-u.ac.jp)

（全角@は、半角に変えてください。）

## (2) 広大マスターズ講師派遣講座

### (2-1) ちゅーピーカルチャセンターに2講師派遣

広大マスターズ幹事 金田 晋

2024年度も2講師派遣。

難波平人会員「水彩・油絵」(毎月第2金曜日)

金田晋会員「美術を読むー19~20世紀転換期の美術革命」(毎月第2・第4金曜日)

難波教室は受講者12名(7月末現在)。受講生は実技を学び、作品完成に励んでいます。4月20日から1週間、難波会員の別の教室の受講生と一緒に芸術文化ホールくららで作品展示会を開きました。

金田教室は受講者9名(7月末現在。他に2名、7~8月休学、9月復帰予定)。20~80代まで年齢幅も広く、広島、廿日市、三原からも通ってこられます。19~20世紀の転換期における新しい美術の波に焦点をしばって講義。ピカソの「アヴィニョンの女たち」、「ゲルニカ」、マチスの「赤のアトリエ」、ベン・ニコルソンの「長靴をはいた猫」等を読み込みました。

<美術館見学>4/12 講義終了後賀茂泉酒造前垣邸「寿庭園」見学。前垣かよ夫人(本教室受講生)の解説を受けました。5/10 下瀬美術館(大竹市)を見学しました。当美術館の谷藤文彦副館長から美術館全体の解説と開館1周年を記念して開かれていた加山又造展の一緒に歩きながらの説明を受けました。

### (2-2) 令和6年度夏期日本語・日本文化特別研修に2講師を派遣

広大マスターズ幹事 金田 晋

本研修は、昨年冬から台湾、非漢字圏両クラスは対面方式に戻り、中国クラスも今年冬から対面+オンラインのハイブリッド方式で行われています。コロナパンデミックから立ち直りました。台湾12名(参照:冬期34名)、非漢字圏23名(ベトナム3名、韓国20名。参照:冬期16名)、中国22名(対面)+20名(オンライン)(参照:冬期76名(対面)+67名(オンライン))でした。マスターズからは今期も講師2名を派遣、3クラスすべてで下記の講義を行いました。

金田晋会員「日本の絵画ー鳥獣戯画の世界」。

世界的に親しまれている日本の漫画、アニメを糸口にし、その源流として知られる12世紀の国宝「四大絵巻」の名場面を紹介、特に「鳥獣戯画」甲巻については、約10メートルの画卷を順々に鑑賞し、あわせて日本美術の特質を学びました。「鳥獣戯画」はそれぞれの大学(日本文化、日本語学等)でも有名場面をピックアップしながら習っているようで、熱心に聴いてくれます。

渡部和彦会員「日本の伝統スポーツと礼ー武術から武道へ(剣道の演技あり)」。

柔道、剣道、空手道に通じる「道」は、また和の文化である華道、書道にも通じる日本文化の精神性の特質であります。スポーツと礼の視点から日本人の行動様式を説きました。いつも通り、広大剣道部の学生の実演があり、全受講生の「メン」打ち動作と「メーン」発声で締めくくりました。

広島原爆で亡くなった市井のカイアシ類学者、森 喬以（1902-1945）、の生涯と業績

広大マスターズ会員 遠部 卓

カイアシ類 (Copepoda) は海洋・陸水の動物プランクトンの主体を構成する小型甲殻類で、光合成によって生産される植物プランクトンを摂食して繁殖し、自身は仔稚魚の餌として捕食される。水域生態系の中で極めて重要な生態的役割を担う動物群である。日本におけるカイアシ類研究の歴史は19世紀末に始まり現在に至っている。2024年6月には世界カイアシ類会議が広島市で開催され、世界中からカイアシ類研究者が集まり最新の研究情報が交換された。この機会に広島出身の世界に誇るべき市井のカイアシ類学者、森 喬以の事蹟を辿り、その功績を顕彰したい。

森 喬以 (モリ タカモチ) は、1902年5月5日の端午の節句の日に広島市の郊外、佐伯郡平良村 (現在：廿日市市) に生まれた (Damkaer, 1995; Damkaer and Onbé, 2018)。幼少の頃、親元を離れ地元の寺に預けられて育ったと伝えられている。1920年、広島市の私立広友中学校を卒業し、同年、文部省の中等学校教員検定試験〔文検〕に合格し、化学、数学、生物学の教員免許を取得した。広島市立商業学校の数学教師として勤務しつつ、広島県水産試験場の顧問として広島湾の餌虫調査などを行う傍ら、同場のカキ養殖の権威、田村松太郎技師 (1901-1938) (農商務省水産講習所養殖科出身) と親交を重ね、同氏の指導の下に広島湾のプランクトンを調べた。1929年、日本海南西部の浮遊性カイアシ類の研究を開始し、以後、夏休みの期間を利用して商船や漁船に便乗し、北西太平洋の広範な海域からプランクトンを採集し、その中の浮遊性カイアシ類を同定・記載した。その結果は1937年、「日本周辺海域における浮遊性カイアシ類」という大部の英文論文として自費出版された (Mori, 1937)。この論文は、浮遊生物学、水産学、海洋学の基礎文献として今なお内外の研究者によって引用され続けている。森はその短い生涯の中で、20属32種のカイアシ類の新種を記載し、美しい図を与えている (Onbé and Kitajima, 2018)。このうち15種が現在なお有効である (WoRMS, 2024)。

1942年、広島市の自宅を「森海洋生物研究所」とし、同時に「光明塾」を開設して、小・中学生に算盤を教えた。1945年8月6日、広島市立商業学校が改組された広島造船工業学校の同僚教師1名とともに多数の生徒を引率して広島市内の家屋解体作業に従事中、原子爆弾の爆発に遭遇して死亡したと伝えられる。その日、中学一年生だった長男も被爆して亡くなっている。

1970年、著者は森 喬以の妻、アヤ子さんに手紙を送り、故 喬以氏の遺品を見せてほしいと依頼したが、すべてが戦災で灰燼に帰し何も残っていないとの回答があった。その後、広島大学の大家 攻教授らによって森のモノグラフ (Mori, 1937) に使用された原図の亜鉛凸版が奇跡的に再発見され、広島大学附属博物館に収納されたという嬉しいニュースがあった (大家ら, 2015)。今年には広島原爆忌79周年を迎える。改めて、われわれが世界に誇るカイアシ類学の先達の業績を回顧し、深甚なる敬意を表したい。

参考文献

- Damkaer, D. M. (1995). Takamochi Mori (5 May 1902~6 Aug. 1945). *J. Crust. Biol.*, 15 : 599-600.
- Damkaer, D. M. and T. Onbé (2018). *Droplets from the Plankton Net: A Biographical and Bibliographical History of Copepodology in Japan*, xvii+137pp., WAC, Washington, D.C.
- Mori, T. (1937). *The Pelagic Copepoda from the Neighbouring Waters of Japan*, 150pp, 80pls, Yokendo, Tokyo.
- 大家 攻, 清水則雄, 佐藤大規, 佐藤靖彦 (2015). 原爆を乗り越えて：森喬以の浮遊性カイアシ類モノグラフ亜鉛凸版の奇跡的再発見. *日本プランクトン学会報*, 62 : 123-128.
- Onbé, T. and C. Kitajima (2018). Becoming a copepodologist: Takamochi Mori and Matsutaro Tamura. In: Damkaer, D. M and T. Onbé (2018), pp.108-121.
- World List of Marine Species (WoRMS) (2020).

## 広島大学東広島キャンパス内に「平和の小道」を創る

広大マスターズ会員 上 真一

今夏、広島は原爆惨禍から 79 年目を迎える。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、広島市上空で炸裂した原爆は、直径 400 メートルの火球となって地表を焼き尽くした。その惨状は「今後 75 年、草木も生えないだろう」と言われた。しかし、翌年には焼け爛れた木々から若葉が芽吹き、葉を広げ、わずかな木陰を作った。生き残った人々はその姿を目にし、木々の生命力から勇気をもらい、過酷な日々を乗り越える活力を得た。爆心地から約 2 キロメートル以内で被爆し、生き残った約 160 本の木々が広島市により「被爆樹木」と認定され、登録されている[1]。被爆者は高齢化し、10 年後に生存者はほとんどいなくなる。そうなれば、被爆樹木が原爆の生き証人に替わる。(本文中で下線のある文言にはリンクがあります。ネット環境にある PC 等で御覧の場合、クリックしてください。)

被爆樹木の姿、形は様々である。例えば基町高層アパート群の中にある被爆クスノキは樹高 20 メートル以上に及び、常緑の葉をいっぱい茂らせて、被爆したことなど全く感じさせない力強さがある(写真1)。一方で、痛々しい木々がある。中でも広島城のお濠端にあるユーカリはその最たるものだろう。本来ユーカリは空に向かって一直線に伸びるが、この木の背丈は抑えられ、枝は曲がりくねって絡み合っている(写真2)。恐らく原爆放射線の影響により木の性質が変わり、もがき苦しんでいるような姿に変えられたのであろう。同じくお濠端にある被爆マルバヤナギも損傷がひどい。幹に大きな空洞を生じ、支柱によりかろうじて立っているに過ぎない。近いうちに寿命が尽きるだろう。クスノキやイチョウのように 1 本の幹から成立する被爆樹木 29 本の傾きを筑波大学の研究者らが調べ、その 80%が爆心地側にお辞儀をするように傾いていることを明らかにした[2]。爆心地側の幹は高熱と放射線の影響により成長が阻害され、一方、反対側はそれらの影響が少なく成長できたためではないかと推定されている。

被爆樹木を見守り、それらの種や苗木を世界各地に送る活動をしている

「グリーン・レガシー・ヒロシマ」と呼ばれる任意団体がある[3]。2011 年に設立され、当時から広島大学は構成メンバーであった。2012 年、当時平和・国際担当の理事・副学長だった私は、職



(写真1) 広島市基町高層アパート群内の被爆クスノキ。丁度樹勢回復作業を行っている。



(写真2) 広島城お濠端の被爆ユーカリ。曲がりくねった枝を支える樹木医である友人の堀口力さん。

務の一つとしてこの団体の委員会などに出席し始めた。ヒロシマの心を世界に届ける活動の意義に大いに賛同し、大学を定年退職後は個人として居残り、現在はエグゼクティブコミッティーの一人である。活動の一環として、恒例の秋の種取りのみならず、苗木の送り先であるシンガポール国立大学のテンプスカレッジや、スロベニアのルブリャナ大学（たまたま学振の二国間共同研究で滞在中）での植樹記念行事に参加した（写真3）。当時から気掛かりだったことは、広島大学の理念5原則の最初に「平和を希求する精神」を謳いながらも、東広島キャンパス内に被爆樹木二世群が存在しないことだった（ただし、被爆ソメイヨシノ二世1本だけは存在していた）。キャンパス内に仮想の小道（トレイル）を設け、それに沿って被爆樹木の苗木を植え、それらを歩いて辿ることのできる「平和の小道」を作ろうと考えるようになった。京都大学を東に抜けると、東山山麓に沿って「哲学の道」がある。その平和版を模したのである。2016年、当時の平和・国際担当の佐藤利行理事・副学長にこの構想を説明し、その後、この案は役員懇談会で了承された。

2017年4月、広島市内で育てられていた被爆樹木13種類、合計約250本の苗木を東広島キャンパス内の圃場に仮植えした（写真4）。それらが東広島の気候と土壌に適合できるかどうか、その後3年間に亘って見守った。東広島キャンパスは一見広大であるが、実は苗木を植えることができる場所は限定された。岩盤や水はけの悪い場所、埋設された電線や上下水道付近、埋蔵文化財のある場所は避けなければならない。さらに苗木が大木に育った時をイメージして、既存の植生や建造物と干渉しないよう配慮する必要がある。本部施設部や埋蔵文化財担当教員と協議を重ねた上で、「平和の小道」のルートを決めた（地図1）。2020年3月、圃場で順調に生育した苗木群から9種類、合計22本の苗木を選抜し、土壌改良を行った上で21地点に植えた。この22本の中に、美しいアオギリの苗木1本があった。4月20日に「平和の小道」の完成を記念して、越智学長や関係者の手でこのアオギリを植えるよう手配し、マスコミにも案内を出した。しかし、新型コロナ感染が勃発し、記念植樹式は中止となった。アオギリはやむなく私の手で植えざるを得なかった（写真5）。



（写真3）2014年4月、シンガポール国立大学テンプスカレッジでの被爆クスノキ苗木の植樹式。

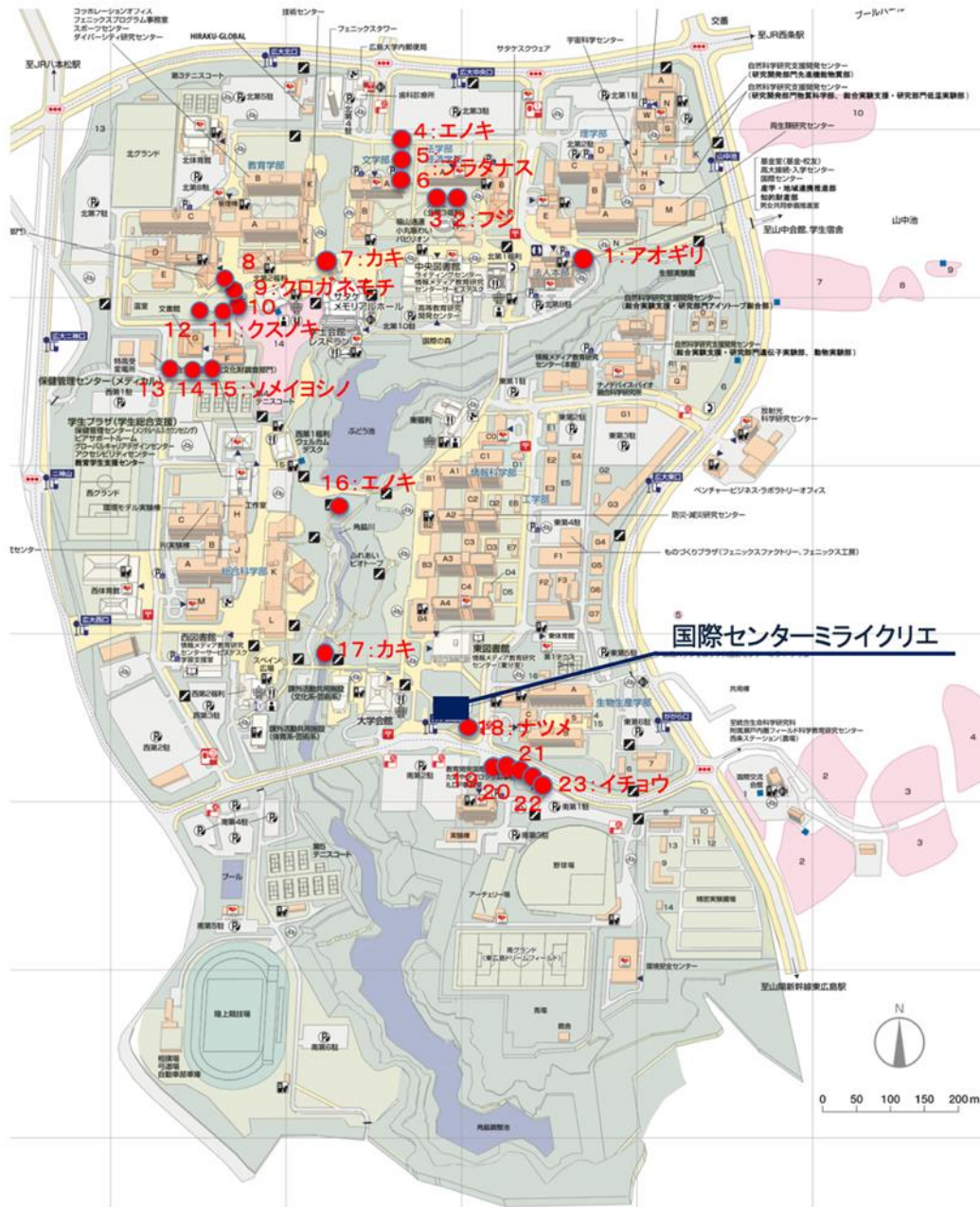


（写真4）2017年4月、被爆樹木苗木約250本を東広島キャンパス内の圃場に仮植え。



（写真5）予定していた植樹式の中止により、前日に被爆アオギリの苗木を植える。

# 東広島キャンパス内「平和の小道」と植栽樹種



(地図1) 植えた樹種とそれらの場所を示すキャンパス地図 (広島大学東広島キャンパス)

コロナパンデミックの終息が見通せない中、私は完成記念植樹式のタイミングを狙っていた。折から広島大学フェニックス国際センター「ミライクリエ」が竣工し、その前庭に被爆ナツメの苗木1本の場所を確保した。2021年11月6日、この年のホームカミングデーのパーティーの後に、関係者がスコップを入れてナツメの苗木を植え、「平和の小道」が完成した(写真6)。キャンパス地図(地図1)に示すように、「平和の小道」は大学本部(アオギリ)から始まって、法学部・経済学部・文学部(フジ、プラタナス、エノキ)、教育学部(カキ、クロガネモチ、クスノキ、ソメイヨシノ)を經由し、キャンパス中央の谷(エノキ、カキ)を南下して、ミライクリエ(ナツメ)、国際協力研究科(イチョウ)に至る2キロメートル弱のトレイルである。勿論どこから歩き始めてもらっても構わない。これに沿って合計23本の被爆樹木の苗木が植えられており、それらの説明板には母木の被爆場所などが書かれている(写真7)。



以後、毎年8月6日の朝、「平和の小道」を散策する行事を行ってきた。参加者は7時45分までにミライクリエに集合し、被爆樹木に関する私の説明を聞き、8時15分に1分間の黙祷を行い、そして散策に出発した。現在の苗木はまだ小さい。これらが大きく育ち、樹下に木陰を宿し、そこに人々が憩えるまでには数10年を要するだろう。いずれ多くの学生諸君が「平和の小道」を散策し、原爆から生き残った被爆樹木二世の逞しい生命力を感受し、同時にそれらの由来を知ることによって、平和・共生・希望について想いを巡らすようになるであろうと期待する。多くの人々の協力と理解により、東広島キャンパス内に「平和の小道」を創設できたことを嬉しく思う。木は先ずは植えることで物語は始まる。



(写真6) 2021年11月6日、ミライクリエの前庭に越智学長や関係者が集まり、被爆ナツメの苗木を植えて「平和の小道」が完成。



(写真7) 被爆ナツメ苗木の説明板。

#### 参考文献

- [1] 被爆樹木リスト (広島市ホームページ) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/48/9262.html> (2024年8月5日参照)
- [2] 大脇 なぎさ, 鈴木 雅和, 堀口 力 (2014) 『広島市における被爆樹木が爆心地との位置関係において示す樹形異常』、ランドスケープ研究 77 (5), 627-632. <https://doi.org/10.5632/jila.77.627>
- [3] グリーン・レガシー・ヒロシマ (ホームページ) <https://glh.unitar.org/> (2024年8月5日参照)

## 会員情報

### 訃報

広大マスターズ幹事 岩田 賢司

下記の訃報が寄せられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

吉田 光演 先生(総合科学研究科 2020 年退職) 2024 年 4 月 16 日ご逝去

## 追悼文

### 吉田光演先生を悼む

広島大学 副学長 (教授)  
岩永 誠

吉田光演先生は、2024 年 4 月 16 日に 69 歳でご逝去なされました。2020 年 3 月に広島大学をご定年で退職されたばかりで、早すぎのご逝去に驚きしかありません。本当に残念です。昨年 6 月にお会いした際、少し痩せられたかなと思いましたが、ビールを飲みながら笑顔で話される様子はいつもと変わりませんでした。こんなに早くお別れが来るとは思いもしませんでした。

吉田先生は、1992 年 10 月から広島大学総合科学部に着任され、定年退職されるまでの 26 年 6 ヶ月にわたり、ドイツ語学、言語学に関する教育研究に従事されました。2012 年 4 月から 2016 年 3 月まで総合科学部長・大学院総合科学研究科長を務められ、総合科学部・研究科の発展にご尽力されました。特に、副研究科長の時代には、吉田先生が中心となって企画した「文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム」が文部科学省の「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に採択されました。大学院教育に PBL 型授業を取り入れる先見的な取り組みでした。また退職後は、広島大学マスターズで市民講座を担当されるなどご活躍され、わかりやすい授業で評判でした。

吉田先生は誠実で穏やかで、笑顔が素敵な先生でした。私とは廊下で立ち話をすることも多く、幅広い話題にはいつも驚かされました。いろいろなことに興味を示され、総合科学的な発想をされる先生だったと思います。学問と学生を愛し、総合科学部を愛し、総合科学部の発展を願い続けた先生でした。

ご冥福をお祈りいたします。

## 黒川正流元幹事の逝去を悼む

広大マスターズ幹事 金田 晋

黒川正流先生が去る3月19日ご逝去されました。享年86歳。

広大マスターズの立ち上げには準備の段階から加わり、草創期には中心的存在として力を尽くされました。

先生は薩摩弁がよく似合う九州男児で、九州大学教育学部教育心理学科を卒業され、同大学院に進学、同助手を経て、1972年広島大学に赴任。まず西条研修センターに着任、総合科学部が創設される(1974年)とそこに移り、以後26年間人間行動研究講座の中心スタッフとして活躍されました。併せて学生相談室にも関わられ、学生たちのよき相談相手でありました。律儀で正義感の強い人柄は誰からも信頼されていました。日本グループダイナミクス学会常任理事(1996年全国大会委員長)、産業・組織心理学会理事。

1973年第4次中東危機に連動して世界規模の第1次オイルショックが起こったとき、日本中のスーパーの店頭からトイレットペーパーが消えるというパニックがありました。先生は新聞やテレビに幾度も登場し、市民向けに適切な提言をされていました。

先生のいちばんの専門は、地域や職場における集団形成のダイナミズムの分析で、自然災害や社会不安時における集団心理の調査分析、リーダーシップ形成の諸相の研究であり、また職場における男女性差、ジェンダー問題などについても先駆的な業績を遺されました。2000年広大定年退職、同名誉教授。以後比治山大学、九州女子大学にも勤められました。

ここにご冥福を祈ります。合掌。



### 【広島大学マスターズ事務局】

(郵便物宛先) 〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29

東広島市市民協働センター内 メールボックス No.5 「広大マスターズ」

Eメール: [masters@hiroshima-u.ac.jp](mailto:masters@hiroshima-u.ac.jp)

URL: (会員版) <https://masters.hiroshima-u.ac.jp>

(かわら版) <https://hirodaimasters.web.fc2.com/index.html>